学びの基盤となる【読書】



【読書】キャラクター「おっほん」

実施期間

【１０／１　～　１２／２４】

札幌らしい特色ある学校教育

おっほんシート

札幌市立有明小学校

読書活動の取組

読書センターとしての機能

毎週、火、水、木曜日の週３日間、開放図書館が開館しています。子どもたちはもちろん、大人も利用しています。本の貸出し、返却の業務は、午前中は子どもの活動として、午後は図書ボランティアの方の活動として行われています。

今年度も新規に１００冊程度の図書を購入しました。小規模校のため、“図書室”がなく、蔵書を保管するスペースがありません。子どもたちが読書への関心を高め、楽しみながら“読書に浸る”ことができるようなものを購入できるように心掛けています。



棚やカウンターの上から、かわいい「シマエナガ」が見守っています。

学習センターとしての機能

国語や理科、社会など、教科で調べ学習に取り組むとき、総合的な学習の時間で調べたものを新聞やレポートにまとめるとき、図書コーナーの本が使われています。事典等の資料を活用したり、まとめ方そのものを調べて参考にしたり、子どもたちは工夫して活用しています。

１人１台端末の活用で、インターネット検索等は容易なものとなりました。それと並行して、事典等の詳しい挿絵や資料をじっくり見ながら調べることで、より深い学びにつなげることができています。



各学年・各教科の教科書に出てくる図書のコーナーを充実させることにより、より学習で活用しやすくなりました。

情報センターとしての機能

本校の「アカゲラコーナー」には、学校のこれまでの歩みや歴史を記録した貴重な資料が残っています。本校が小規模特認の指定となり、校区外からも児童が通うようになってからは、有明地区の歴史について知る機会として地域の方々との交流する場としても活用されています。

今年度は掲示コーナーの棚に、４年生が国語の学習で作成したポップを各本に付けて並べました。楽しいところや、興味をもったところが紹介されています。他の学年の児童はポップからたくさんの情報を得て、本に対する興味を深めるよい機会となりました



興味をそそられるポップがそろいました。